

令和元年度第2回習志野市長期計画審議会 議事録

日 時：令和元年11月5日（火） 午後1時30分から午後3時00分まで
 場 所：市庁舎3階 AB会議室

委員出席者：廣田直行委員（会長）、真船和子委員（副会長）、田中真太郎委員、
 央重則委員、鮎川由美委員、布施孝一委員、渡邊勇委員、田村裕子委員、
 酒井康弘委員、滝聖子委員、田所喜美子委員、村昭寛委員、池永良恵委員、
 下田桂子委員、宮入謙委員

事務局出席者：竹田佳司政策経営部長、江川幸成政策経営部次長、越川智子総合政策課長、
 奥山昭子政策経営部主幹、西郡隆司政策経営部主幹、渡部祐樹副主査

議 事：（1）後期基本計画（案）について
 （2）その他（事務連絡等）

資 料：〔資料1〕習志野市後期基本計画（案）
 〔資料2〕後期基本計画（案）に対する長期計画審議会からの意見と対応
 〔資料3〕後期基本計画成果指標根拠シート
 〔資料4〕人口動向分析

議 事 録：

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 及 び 決 定 事 項
廣田会長	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p>出席委員は、15名のうち15名である。本審議会は成立した。</p> <p style="text-align: center;">議 事</p> <p>日程第1、会議録の作成等について諮る。 会議録については、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、非公開の審議事項を除く記録について、本市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて、公開することについて諮り、了承を得る。</p> <p>日程第2、会議録署名委員の指名について、鮎川委員及び下田委員の指名について諮り、了承を得る。</p> <p>日程第3、審議「後期基本計画（案）について」説明を求める。</p>

令和元年度第2回習志野市長期計画審議会 議事録

奥山政策経営 部主幹	<p>はじめに、資料1を見ていただきたい。</p> <p>後期基本計画案については、前回、8月5日の第1回長期計画審議会において、市長からの諮問に基づき、御審議いただいた。</p> <p>委員の皆様には、会議当日の御意見に加えて、下田委員、宮入委員においては、書面においても御意見を頂戴した。</p> <p>審議会委員の皆様のお意見については、その後、庁内の各部局において、その対応を検討するとともに、必要に応じて修正等を行っている。そして、その後開催した、庁内の係長クラスの会議である「第5回後期基本計画策定作業部会」、部長クラスの会議である「第6回後期基本計画策定委員会」に諮り、検討をしている。</p> <p>資料1の計画案を見ていただきたい。8月5日の長期計画審議会でお示した内容からの修正部分は、赤字または青字、緑の部分になる。赤字は、審議会後、事務局で修正等を行ったもので、青字は、各部局に照会后、修正をしたものである。また、緑色の文字については、さらにその後修正したものとなっている。</p> <p>また、黄色で色を塗った部分については、最終的に、用語説明を掲載する文言となる。</p> <p>ここで、資料2を見ていただきたい。</p> <p>資料2は、長期計画審議会委員の皆様からの御意見とその対応についての一覧表である。左側から、計画書における分類、審議会委員からの質問及び指摘事項、委員名、担当課、指摘事項への対応の順となる。</p> <p>この中で、計画案の文面、文言等に反映したものは、左側の番号で言うと、1番、2番、24番、25番、32番、33番の6つになる。</p> <p>1番は、下田委員からの御指摘で、後期基本計画の位置づけについて、図などで分かるようにした方がよいというものである。また、次の2番の御指摘は、廣田会長からで、後期基本計画と分野ごとの個別計画との関係性が分かる内容を示してほしいという御意見である。</p> <p>この対応としては、後期基本計画と個別計画との関係性を示すため、資料1の計画案の4ページに、「I-3 計画の位置づけ」を追加し、後期基本計画の体系に個別計画を掲載し、後期基本計画と個別計画の関係性を示している。</p> <p>次に、24番を見ていただきたい。こちらは、下田委員からの御指摘で、教育委員会部分の160ページからの163ページの記載について、他のページと異なり、現状と課題が分かりにくい、1つの号に見出しを付けているので、号を分けてもいいのではないかという意見等である。この対応としては、号は変更していないが、現状と課題、取組内容の書き方を他の書き方に合わせることで、御指摘への対応を図っている。</p> <p>次に、25番を見ていただきたい。こちらは、同じく下田委員からの御指摘で、計画の中に指定管理者名が記載されていることに違和感があるというもの</p>
---------------	---

である。この対応としては、該当部分を削除している。

次に、32番を見ていただきたい。こちらは、宮入委員からで、「IV-3のSDGsの推進」について、「本市の施策に直接該当しないと思われる目標もある」といった記載をしていることについて、後退的な表現であるとの御指摘である。この対応としては、該当部分について、削除し、文言を修正している。

次に、33番を見ていただきたい。廣田会長からの御意見で、各部署との関係性が分かるように、組織図を入れてほしいとのものである。この対応については、計画の策定経過や策定組織、基本構想等を巻末に参考資料として挿入する予定としており、そちらに合わせて記載することを考えている。

その他の回答については、記載のとおりであるが、例えば、3番、4番、5番、6番については、本計画の中では対応しないものの、それぞれの個別計画における施策に掲載することを検討する等の回答となっている。

次に、資料1の計画案に戻り、計画案のそのほかの主な修正点について説明する。

1点目は、19ページから21ページの財政概況である。前回の資料では、平成29年度の実績となっていたが、平成30年度の実績に差し替えている。

2点目は、30ページから37ページの「前期基本計画、及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の実績と課題」である。こちらについても、平成29年度の実績から、平成30年度の実績に差し替えを行っている。なお、31ページから33ページ、34から36ページの課題と実績について、一部修正をしている。

3点目は、40ページにソサエティ5.0の説明を追加している。

ソサエティ5.0は、国の新たな動きとして、説明を入れるべき重要な事項であることから、記載した方が良いのではないかとこの庁内意見があったことから、追加をしている。

4点目は、41ページに「本市のこれからのまちづくりの課題」を追加した。国の課題だけではなく、本市のまちづくりの課題の記載がなかったことから、追加をしている。

5点目は、50ページ、51ページに「施策の見方」を追加した。記載をしている内容が、どのような意味を持っているか説明をする部分になっている。

6点目は、52ページから197ページの施策内容である。

各部局が、文章および指標について再度確認し、修正を行っている。修正にあたっては、各部局からの修正もあるが、事務局が修正をし、確認を求めた部分もある。

なお、43ページには、計画書の後半部分の目次を記載している。Iの「財政計画」の右及び、Ⅲ 後期基本計画の右に四角で囲んだ中に※の記載がある。こちらについては、本審議会でお示しすることを検討していたが、今回はお示しできないことを記載しているものである。

	<p>現在、本計画の策定にあわせて、後期第1次実施計画、経営改革大綱、公共施設再生計画を今年度中に策定する予定である。経営改革大綱では、経営改革の取り組みにより削減する事業等を、公共施設再生計画では、財政状況を確認する中で、次期計画で取り組むべき内容を検討している。本計画の具体的な取り組みである、後期第1次実施計画においても、財政状況を確認する中で、実施する事業を精査する必要がある。</p> <p>これらと整合性を図る必要があることから、現時点では、財政計画をお示しすることができていない。</p> <p>また、同様の理由により、各号の取り組み内容の後に掲載する「主な事業」についても、今回はお示しできておらず、御報告させていただく。</p> <p>続いて、資料3を見ていただきたい。</p> <p>こちらの資料については、各「項」に設定している、指標の根拠等を取りまとめたものである。</p> <p>8月5日の長期計画審議会において、央委員より、指標の根拠を提出してほしいとの御意見を頂戴しており、今回ご提示させていただいた。</p> <p>指標の設定にあたっては、できる限り、施策の成果を測る指標、いわゆる「アウトカム指標」を設定していただきたいこと、また、成果を測る指標としては、アンケート調査の結果なども考えられるが、アンケート調査の結果を指標とすることは、毎年の実績を図ることが難しい場合もあることから、あまり望ましくないことを庁内には周知しており、それらを踏まえた中で、担当部局が十分に検討し、今回の指標を提出いただいている。</p> <p>しかしながら、アウトカム指標では設定するのが難しいものもあることから、結果として、活動量を表す指標である「アウトプット」になっているものもある。資料1、資料2、資料3の説明は以上である。</p>
<p>鮎川委員</p>	<p>32ページの表題について、前回の「性的少数者に対する」という表現が「性の多様性」に変わっている理由を伺いたい。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>現在、男女共同参画計画を策定しており、そちらに文言を合わせている。</p>
<p>鮎川委員</p>	<p>36ページの基本目標3に「関係機関と広く連携した無業者」とあるが、無業者という意味は習志野市内にない事業者のことでよいか。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>「無業者」は無職という意味である。こちらも産業振興基本計画を策定しており、そちらに文言を合わせている。</p>
<p>宮入委員</p>	<p>今回の審議会を踏まえて、パブリックコメント、来年1月に審議会があるが、委員として本日出した意見は、今後どのように反映が可能なのか。それによっ</p>

<p>越川総合政策課長</p>	<p>て細かいところに行くのか。全体の話なのか変わってくると思うので確認させていただきたい。</p> <p>第1回、第2回審議会の御意見を頂戴して、市長への答申の際の付帯意見としてまとめさせて頂く。第1回、第2回審議会の御意見を合わせて、事務局で文案を作成し、それを叩き台として委員の皆様へ11月中に送付させて頂く。加筆修正・御意見を頂き、練り直した案を次回会議の資料と合わせてお送りする。1月の会議では、スクリーンも使いながらその場で御意見を頂き、その場で修正して案を作り上げ、市長への答申に間に合うように作業をさせて頂ければと考えている。</p>
<p>央委員</p>	<p>後期基本計画の目玉になる事業や施策があれば教えて頂きたい。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>44から46ページに後期基本計画で取り組む重点事項を記載している。全体のイメージとしては「魅力あるくらしのできる習志野市へ“新しいひとの流れ”づくりの強化」を掲げた上で、1点目が「将来を見据えた都市空間の整備」になる。JR津田沼駅周辺地域の再開発の関係、鷺沼市街化調整区域のまちづくりの関係、UR都市機構の団地再生事業の3点が、将来を見据えた都市空間の整備になる。後期計画の目玉になってくるものである。新しい人の流れづくりの強化ということでハード面が主になる。</p> <p>2点目は、魅力あるくらしづくりの推進と地域共生社会の実現である。大きいところでは、子育て・教育環境の一層の充実ということで、待機児童対策や学校施設の老朽化対策、ICT環境整備、わかる・できる授業の展開といった形、安心できる保育と、より高水準な教育の実現ということが1点。高等学校が4つ、3つ大学が立地しているということで、若い世代にとって愛着のある魅力的なまちづくり。地域とのコミュニケーションの機会や地域課題の解決等のそういった人達に活動の場を提供しつつ、習志野市に対する親しみ・愛着の醸成を図り、定着・定住の促進を目指すといったものを掲げている。</p> <p>その他にも、公共私という相互間の協力関係の記載や、46ページの青字のところは、主にシティセールスの関係である。また、11月2日にプラッツ習志野がオープンした。大久保の生涯学習複合施設であるが、こちらに場としてフューチャーセンターを設けている。民間事業者が実施するフューチャーセンターではあるが、様々な人が出会い・集い、地域の課題解決や自らがやりたいことを実現するということのきっかけになるような場になる。そういったものを目指していくような、こちらはソフト面を書いている。最後に書いてあるのは、超高齢社会への対応ということで、地域包括ケアシステムの構築を記載している。</p> <p>大きくハード面とソフト面であるが、重点として掲げているものについて</p>

<p>中央委員</p>	<p>は、以上の2点を考えている。</p> <p>この計画書の前提は人口推移であり、人口推移を追っていくと、最後は少子高齢化が一層進んでいくということになり、希望や夢がないので目玉事業を聞いた。大前提として習志野市文教住宅都市憲章があり、基本構想があり、前期基本計画、後期基本計画になる。他の計画があると言っているが、具体的な事業が空欄になっている意味が分からない。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>現在、後期基本計画に基づく後期第1次実施計画策定作業を、係長級会議を中心として行っている。事業費にとって大きな影響がある公共施設再生の第2期計画も策定中である。建設事業であり大きな影響がある。更に全体の財政計画の中では、経営改革という面で歳入増と歳出削減という部分での経営改革大綱、実際は経営改革大綱の下の実行計画が主な取り組みになるが、財政課、資産管理課、総合政策課と3課で、整合性をとりながら作業を進めているが、間に合っていないという状況である。</p> <p>部長級会議でも目玉になるような事業をどのように考えるかといった議論があったところである。ただし、お示し出来る段階に無いため、早急に検討を進め、1月の審議会では最低限お示ししたいと考えている。</p>
<p>中央委員</p>	<p>基本計画があつて、その下にある様々な個別計画をつくっていくということだと思うが、調整中というのが理解出来ない。個別計画が上がってきたのをまとめようとしているのか。同時に進んでいるように見えるが関連性が分からない。基本計画なので6年間のやるべき姿をきちっと出すということだと思う。それから下に下りてくるものなので、調整中ということとは理解出来ない。</p> <p>環境のところが進歩していない。毎年同じことを書いている。習志野市は小さな町かもしれないが、逆にいえば同じ共有をしなければいけない大事な意味合いだと思う。大前提があつて、それを受けてつくっていかなければ整合性がとれないと思う。</p>
<p>竹田政策経営部長</p>	<p>3ページに記載があるとおおり、文教住宅都市憲章を最上位のものとし、基本構想に基づく基本計画ということである。後期基本計画については、4ページにある個別計画の要というか、この計画をもって個別計画に下ろしていくということになる。そういう意味では、御指摘のとおり、後期基本計画がしっかり出来ていないと個別計画が成り立たない。どういう計画をつくって良いか分からないということである。逆に申し上げると、個別計画についても叩き上げていく中で、後期基本計画と摺り合わせていかなければいけない。現在、この作業をやっているところである。</p> <p>30、31ページは前期基本計画における実績と、32ページには課題を少</p>

<p>田中委員</p>	<p>し掲載している。32、33ページの課題について、具体的にこれから取り組むべき事業ということで認識をしている。この辺をベースに具体的な事業について作り込みをしている。</p> <p>後期基本計画の重点事項については、ハード・ソフトということで、どうしても上位計画になると、具体的なことをいうよりは、少し抽象的なことを記載して、主な事業が見えてこないということだと思う。基本計画に基づく実施計画について、来年の予算編成と合わせて策定作業中である。そういう意味では、主な事業、具体的な事業の作り込みについて、今しばらく時間を必要としている。年明けの予算編成と合わせて、具体的な事業をお示しして参りたい。</p> <p>92ページの防災について、今回の災害を踏まえた記載をして頂きたい。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>備蓄の計画について、現在、所管課で検討している。3つの台風災害を踏まえた内容を入れる方向で調整する。</p>
<p>布施委員</p>	<p>後期基本計画の6年間であるが、生産年齢人口が増えてきている。それに伴い年少人口が減ってきている。財政的には市税収入が増えていく気がする。</p> <p>今でも後期高齢者が多く高齢化の波がきているが、令和7年度以降になると人口が減少し、生産年齢人口や年少人口も減少してくる。後期基本計画以降を見据えた上での計画にしていけないといけない。年少人口が減少しつつある中で、今後6年間で年少人口を維持又は増やしていく施策が重要だと思うが、力を入れている事業はあるか。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>人口推計からも、少子化対策について一層重要度が高まっていくこと、また、それらに係る経費も増大していこうということがある。少子化対策が重要であると思っている。一般的に25歳から39歳の女性の出生が、全国的に8割を占めるという状況の中で、まずはこの世代の女性を逃がさないということ、生まれてくる子どもたちも市外に出て行かないように、魅力的な市をつかっていくことが大事だと思っている。</p> <p>全体としては、2025年に25歳から39歳の女性は、約1万5,000人であるが、2019年比でいうとマイナス約600人であり、ここで最小になる。推計では、ここから徐々に増加していく形になっている。2041年で約1万7,000人になり、そこで2019年比でいうと、約1,000人増えている。そこでピークを迎えて徐々に減少していくという推計になっている。</p> <p>1万5,000人台を今後6年間は減少傾向という中でも維持し、そこから徐々に増加し、2033年に1万6,000人台になり、大体2045年くらいまでは1万6,000人台をキープしていくような推計にはなっているが、ここを逃してはいけないと考えている。この部分は、将来の人口増に大きく関</p>

<p>布施委員</p>	<p>わってくるため、具体的な施策は、先ほどの重点事項のソフト面になるが、地道に取り組んでいくしかないと思っている。</p> <p>具体的な事業については、実施計画で検討している状況である。</p> <p>地域共生社会が大きなポイントになってくると思う。私はPTAをやっているが、子どもの朝夕の登校支援に関して、防犯カメラの話も出るが、今年5月に川崎で起こった登校中の子どもが刺されて亡くなったケースがあり、それを機に私の地域の民生委員は登校支援を毎朝している。こういった人達がいれば防犯力は強くなる。防犯カメラの設置も大事だが、マンパワーで地域のため、子ども達のために、そういった人達がどれだけ増えていくのか。高齢化社会で、高齢者が地域にどう貢献していくのか。市民カレッジでもボランティア部があるが、高齢者がどう活躍していくのかということに関して、今後の地域共生社会という視点は非常に重要だと思う。検討を更に掘り下げ、施策としてやって頂ければと思う。</p> <p>市の表彰制度があるが、対象は町会長を何年やったとか、そういうものが非常に多い。長年、交通安全で一生懸命やっている人もいれば、PTAの活動を一生懸命やっている人もいるし、地域で活躍している人がたくさんいる。そういう人達にどう目を配って、表彰の対象としていくのが今後大事だと思っている。習志野市の表彰制度のあり方を見直して、頑張っている市民を表彰するという制度も今後重要になってくると思う。</p>
<p>廣田会長</p>	<p>布施委員の御意見は実施計画の具体的な話であり、参考にして頂きたいと思う。</p>
<p>下田委員</p>	<p>基準値と目標値の年度を統一しなくて大丈夫なのか。</p> <p>目標値について、令和7年度に待機児童ゼロというのは、目標としての値の持っていく方は、それで良いのか検証して頂きたい。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>個別計画でも基準値について検討している。待機児童については、ゼロを目指すべきだろうということで、子ども・子育て支援事業計画で、ゼロにすべく計画策定をしていると思う。</p> <p>基準値と目標値の年度が揃っていないのは、その年度でないと調べられないものがあるのかもしれないが、出来るだけ揃えるように調整する。</p>
<p>廣田会長</p>	<p>日程第3を終る。</p> <p>続いて日程第4、報告 人口動向分析について説明を求める。</p>
<p>奥山政策経営</p>	<p>はじめに、資料の訂正をお願いしたい。6ページに円グラフがあるが、下の</p>

<p>部主幹</p>	<p>円グラフについては、「転出者の前住所地」ではなく、「転出者の転出先」になる。</p> <p>本市では、平成27年10月に、習志野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり、「人口動態分析」を行うとともに、「人口ビジョン」を策定している。</p> <p>人口ビジョンについては、国の手引きにおいて、最新の数値や状況の変化を踏まえた上で、時点修正等、必要に応じて見直しの検討をすることが示されている。</p> <p>このことから、最新の数値を確認するべく、資料4を作成したので、報告する。21ページにわたるため、一部抜粋してご報告する。</p> <p>始めに、出生・死亡の推移を見ていただきたい。</p> <p>本市の出生数は、平成20年以降は1,400人前半で推移していたが、平成28、29年は1,500人台に増加している。一方、死亡数は、高齢者の増加に伴い、増加傾向にあり、平成20年と平成30年の死亡・出生の差を比較すると、平成20年には、1年あたり420人の自然増であったが、平成30年には、84人となり、その差は僅差となっている。</p> <p>続いて、転入・転出の推移を見ていただきたい。</p> <p>転入、転出による社会増減の推移を見ると、約20年の間では、増減に幅があるものの、全体の傾向としては、転出者数は減少し、近年では、平成27年、28年を除き、9千人台で、ほぼ横ばいとなっている。</p> <p>続いて、2ページ、自然増減・社会増減の推移を見ていただきたい。</p> <p>自然増減は、今日まで、一貫してプラスで推移しているが、年々、その数は縮小傾向にあり、平成17年頃からは、さらに縮小し、以降、自然増は、徐々に減少している。</p> <p>社会増減は、年による変動が大きく、総人口の推移に与えてきた影響は、自然増減に比べ、極めて大きいものとなっている。</p> <p>続いて、4ページ、性別・年齢別階級別の人口移動の状況を見ていただきたい。</p> <p>男性における年齢階級別の人口移動は、15歳から19歳、20歳から4歳にかけて、非常に大幅な転入超過となっている。その後、大学卒業後の25歳から29歳には、急激な転出超過となっている。これは、市内に立地・隣接する3大学への進学時において、多数を占める、男子大学生の転出入が影響していると考えられる。</p> <p>女性における年齢階級別の人口移動は、学生、及び子育て世代と思われる20歳から24歳、25歳から29歳、30歳から34歳、35から39歳にかけて、大幅に転入が超過している。このことは、本市が子育て支援策、教育の充実を推進してきたこととの関連が推察される。</p> <p>続いて、8ページ、流入・流出人口の状況を見ていただきたい。</p>
------------	---

平成27年の国勢調査によると、常住人口16万7,909人に対して、昼間人口は、15万3,146人で、昼間人口割合は、91%と高くなっている。

昼間人口の内訳をみると、うち、流入人口は、約7万5,000人であり、千葉市、船橋市から、それぞれ、約1万人の流入がある。

一方、流出人口は、約8万7,000人であり、そのうち、約2万8,000人が、東京都へ流出しており、約3割強の人が、東京へ通勤、通学等をしていることになる。

続いて、10ページ、人口移動の最近の状況を見ていただきたい。

本市への転入者の県内前住地の上位4位は、船橋市、千葉市、市川市、八千代市の順となっており、過去4年間変わっていない。

また、本市からの転出者の県内転出先の上位4位は、船橋市、千葉市、八千代市、市川市の順であり、こちらも過去4年間変わっていない。

また、船橋市、千葉市からの人口移動は、平成27年、28年は、転入超過となっているが、船橋市は、平成29年、30年ともに転出超過、千葉市は、平成29年が、転出超過となっている。一方、八千代市は、毎年、一貫した転出超過となっており、本市からは、八千代市に人口が流れていることが分かる。

続いて、15ページ、地域ブロック別の人口移動の最近の状況を見ていただきたい。

最も人口が増加している地区は、奏の杜地区で、平成25年（2013年）のまちびらきからの7年間で、約8千人増加し、次いで、東習志野地区が、平成21年から約4千人増加している。その他、藤崎、鷺沼台、谷津、屋敷、芝園地区等の増加が高くなっている。一方、減少数が多い地区は、袖ヶ浦、泉町、香澄、秋津地区等で、10年間で、約4千人が減少している。

続いて、17ページ、出生数及び、合計特殊出生率の推移と県内他市との比較を見ていただきたい。

本市の出生数は、平成17年から平成27年まで、1,400人台前半で推移していましたが、平成28年、29年は出生数が増加し、1,500人前後となっている。

また、合計特殊出生率は、平成23年からは、1.3台を維持していたが、平成28年には1.45、平成29年には1.44と増加し、千葉県平均及び、全国平均を上回る数値となっている。また、18ページに近隣市、類似団体との比較をしているが、平成29年の本市の合計特殊出生率1.44を近隣市及び、県内類似団体と比較すると、流山市の1.62に次いで、2番目に高くなっている。

続いて、19ページ、市内在住者の男女別産業人口の状況を見ていただきたい。

本市の国勢調査における男性の産業別就業者数は、第3次産業が、約7割を占めている。第2次産業は、平成22年には、約2割となったが、平成27年

	<p>で増加となった。第1次産業従事者は、1割未満で推移している。</p> <p>第3次産業は、「サービス業」「卸売・小売業・飲食店」「運輸・通信業」が、大半を占めている。</p> <p>続いて、20ページを見ていただきたい。</p> <p>女性の産業別就業者数は、第3次産業が、8割以上を占めており、第2次産業は、約1割、第1次産業は、1割未満となっている。</p> <p>第3次産業では、「サービス業」「卸売・小売業・飲食店」が多数を占め、「運輸・通信業」「金融・保険業」が続いている。</p> <p>これらの数値から、平成27年の人口ビジョン策定以降の人口動向の大きな特徴としては、1つは、自然増減が、これまでプラスで推移していたのが、いよいよマイナスに近づいている状況であること、2つ目は、合計特殊出生率が増加し、国、県の平均を上回っていることが挙げられる。</p> <p>なお、今回、人口ビジョンの取り扱いについては、総合戦略の取り扱いとともに、本計画案の198ページに整理をしている。</p> <p>結論から申し上げますと、平成27年に策定した人口ビジョンは、最新の数値等を踏まえる中で、現時点で見直し等はせず、継続することとしている。</p> <p>その理由としては、200ページの22行目にも記載しているが、今回の人口推計の結果では、2041年の人口は、17万1千人と予測しており、平成27年の人口ビジョンにおいて目指すべき人口像としていた「人口16万4千人」は、達成されることとなっている。しかしながら、年齢別の人口構成比については、大きく変化しないこととなっている。また、平成27年策定の総合戦略において設定した数値目標の達成度については、「20歳代の転出の低減」「子育て世代の転入者数の増」については、目標値を未達成であることが、実績からわかっている。これらのことを踏まえ、平成27年に策定した人口ビジョンは、長期的なビジョンでもあることから、現時点では見直すことはせず、継続することとしている。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>事実は分かったが、なぜそうなったのか分析したのか。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>分析の結果までは記載していない。まち・ひと・しごと創生総合戦略を平成27年10月から実行して、子育て支援については事業的にも予算的にも力を入れてきた。成果としては合計特殊出生率に表れていると思うが、細かい分析には至っていない。</p> <p>県内の人口動向については、近隣から入ってきて近隣に出て行くという傾向は変わっていない。平成30年度の八千代市への転出については若干減っているが、大規模な開発があると近隣同士で人が移動する、そういった形で成り立っている部分は変わっていない。</p> <p>一方で、東京に転出する人が若干増えている。13ページ下にあるが、県外</p>

<p>酒井委員</p>	<p>転入転出超過状況ということでは、東京一極集中になる。広い意味では千葉県も入るが、習志野市としては東京への転出超過を食い止めていくことを目標にしているが、平成29年度、平成30年度が200人程度転出しているとなると、あまり効果が上がっていない。</p> <p>施策に関する実施効果という意味での分析になってしまうが、詳細な要因についての分析には至っていない。</p> <p>ぼんやりした分析の段階で、事実はあって、想定される要因があって、それが数は合っているから、このままで良いという結論の出し方に違和感がある。前の計画の予想範囲内なので、今回はこのままいけると書いて頂かないと不安にしかならない。</p> <p>例えばどこかの地区の人口が減っているのが問題なのか、個別の問題としてはあるが、長期計画として考えると気にしなくて良いとか、東京に人が流れてしまうのもある程度しょうがないとか、区別が出来ていないと、何となく色々な要因がある中で、数は何とかなっているので大丈夫ということでは先が心配になってしまう。</p>
<p>越川総合政策課長</p>	<p>20歳台転出者数の縮減や子育て世代の転入者数増は、目標に掲げたものが達成できていないというひとつの結果でもあると思う。引き続き目標に向かった取り組みをしていく必要があると考えている。</p> <p>経済産業省のリーサスというシステムにおける統計分析であり、更に細かく原因を分析するのは難しい部分がある。「なぜ」「どうして」については、推察の域を出ない部分があり、内部の検討では、こういった理由があるのではないかということはあるが、断定的に申し上げられるものではないというのが、我々の分析のレベルになっており、もう少し掘り下げていく必要はあると思っている。</p>
<p>廣田会長</p>	<p>施策との関係をもう少し明確にした方が良いという御意見であった。参考にさせて頂ければと思う。</p>
<p>宮入委員</p>	<p>15ページの地域ブロック別で、市内の住民の動向に濃淡があることが見てとれる。この中で見ていくと、住民が増えている地区に対して、例えば防災に関しては、今のままでは住民に対して、十分なサービスができないのではないかと。行政サービスの重心をどこに置くかということも、人口の増減で変わってくるのではないかと思う。他の計画にも反映させて頂きたい。</p> <p>住民が減っている地区に対しては、どのようなケアをしていくのかという大きな方針をお聞かせ願いたい。</p>

越川総合政策課長	<p>習志野市で減少数が多い地区については、率で考えると少し増減はあるが、袖ヶ浦、泉町、香澄、秋津になる。町目まで分析すると、いずれも団地である。団地が世帯人員を減らしているという状況である。解決の方法のひとつとして、重点事項に掲げたものがUR都市機構と連携・調整する中で、袖ヶ浦団地の再生に取り組んでいくというものがある。</p> <p>現状において、習志野市で人口減少に大きく影響し、高齢化でも大きな影響が出てくるのが団地である。この対応の一つの重点として袖ヶ浦団地の再生を掲げて取り組んでいく。</p> <p>地域ごとの防災については、今回3つ大きな台風があり、我々も各地域担当職員がまちづくり会議に出席した場などにおいて、色々な意見を頂いている。高齢化した中で、避難所が体育館の2階にあって上がるのが大変という意見や、なぜ1階では駄目なのかなど、様々な意見がある。</p> <p>地域防災のあり方は高齢化等も踏まえた中で、地域ごとにどれだけ濃淡がつけられるかは、これからになるかと思うが、そのような視点からも分析が必要であり、対策が必要であると考えている。</p>
宮入委員	<p>住民が減少している、高齢化しているというマイナス側面のケアの話であったが、住民が4桁増になっている地区に関しては、今のやり方やキャパシティを改めていく必要があると思っている。考えをお聞かせ願いたい。</p>
越川総合政策課長	<p>突出しているのは奏の杜地区である。奏の杜はゼロからつくり上げて8千人になったまちである。東習志野については、グリーンGREENのマンション開発での増加である。学校で課題があったが、今後の開発を見据えた中で、学校のキャパシティについても考え、学校施設再生計画の策定等を現在行っている。子どもの教育環境に悪い影響が起こらないような対応を、我々としても考えていく必要があると思っているし、そのように対応を図っている。</p>
央委員	<p>地域別の人口減少の話だが、泉町はどう捉えているのか。</p>
越川総合政策課長	<p>泉町に関しては、公務員住宅が大きく影響している面がある。袖ヶ浦、香澄、秋津とは別の側面があると思っている。習志野市の人口減の大きな要因は、団地と国家公務員住宅での減少になる。これまで、国の方針において、国家公務員住宅を廃止し、跡地を売却する動きもあったため、その後に民間住宅が入ってくるようなことであれば、新たな住宅の建設による人口増に繋がる面もあるし、一方で優先的に福祉・保育施設の設置を目的として利活用するといった面もあるため、人口を取り戻すのには一概には難しい面があると思っている。</p>
央委員	<p>URが目玉だというだけではなく、要因を把握した上で対応を考えていかな</p>

令和元年度第2回習志野市長期計画審議会 議事録

廣田会長	<p>くてはいけない。6年後もっと変化があるかもしれないので、一辺倒ではなく、しっかり考えて頂きたい。</p> <p>以上で、日程第4、報告を終了する。 続いて、日程第5、その他について、事務局から連絡等があれば伺う。</p>
越川総合政策課長	<p>今後のスケジュールについて、本日頂戴した御意見を調整し直して、11月15日から12月20日まで市民からパブリックコメントを頂戴する予定である。パブリックコメントの計画案については、第3回審議会において、パブリックコメントの内容と対応とともに報告する。</p> <p>第1回審議会において諮問した計画案に対し、第2回に亘り頂戴した御意見に基づき、審議会として市長へ答申を行う予定になっている。答申案は付帯意見になるが、答申案の作成については、資料2及び本日の御意見に基づき、事務局で叩き台として案をまとめ、委員の皆様へ11月中に送付する。委員の皆様から加筆・修正を返送頂き、次回会議資料の送付の際に、答申書案として計画案と合わせて事前にお送りする。</p> <p>当日、答申案の最終的な意見を頂き、会場でスクリーンを使いながら、その場で修正して、皆様で最終的な答申書を作り上げていく方法をとって参りたいと考えている。その後、完成した答申書を持ち、市長へ答申を行う予定である。</p> <p>第3回の審議会は、令和2年1月21日（火）午後1時30分から5階の委員会室にて開催する予定である。</p>
廣田会長	<p>以上で、日程第5、その他を終了する。</p> <p>例年と比べ、基本計画としては踏み込んだものになっていると感じた。実施計画と基本計画のバランスも重要だと思う。皆様の貴重な意見を参考に、次回に向けて取りまとめを宜しく願いたい。</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>